彩りみかん　写真：下田学

みかんの苗木の旅 通信　vol.05

A Journey of Citrus Sapling Letter vol.05

みかんコレクティヴ / Mikan Collective 20240515

みかんレター 05

春の苗木の譲渡会と多様な柑橘を楽しむ会

廣瀬智央

こんにちは。春を迎えた3月10日に第2回目の＜苗木の譲渡会＞、3月9日には＜彩りみかん-多様な柑橘を楽しむ会＞が開催されました。春の訪れと共に植物も活動的になります。3月から4月いっぱいぐらいまでのこの時期は、苗木の移植適期とされています。寒い冬は根っこを伸ばし活着するまで水を吸い上げたり、蓄えたりする力が弱くなります。そのため苗木にできるだけ負担のかからない時期に植え付けしてやることが大事になるそうです。それが、活動を始めるこの時期なのです。また、多品種生産地としての紀南地方では、一年の中で最も多くの品種が楽しめるとのことで、柑橘の食べ比べ会も開催されました。今回のみかんレターでは、＜苗木の譲渡会＞と＜彩りみかん-多様な柑橘を楽しむ会＞の様子をご報告します。

譲渡会の様子
写真：下田学

苗木の譲渡会

第２回目の譲渡会は田辺市の上秋津から白浜町にあるASA　VILLEGEに場所を移し開催されました。コモンズ農園開園に向けて、新しく苗木の里親になっていただく方々総勢約30名ほどに集まっていただきました。今年用意された苗木の品種は、接木の元となるカラタチ、温州みかん、金柑、八朔、檸檬など13種類の苗木でした。これらの異なる種類の苗木は、あみだくじによって選ばれ、苗木を参加者のみなさまにお持ち帰りいただきました。新しい苗木たちは、コモンズ農園が開園するまでの間、里親のみなさまに大事に育てていただけることになります。

宮崎さんとコモンズ農園に話す様子
写真：下田学

柑橘類の苗木について語る宮崎さん
写真：下田学

新しく苗木の里親になっていただいたご家族
写真：下田学

参加者みんなでの記念撮影
写真：下田学

宮崎農園で収穫された木熟みかん100%のジュースにコモンズ農園のラベルを貼ったシュミレーションジュース
写真：下田学

今回、田辺の大坊地区でみかんを栽培されている農家の宮崎元樹さんをゲストにお招きし、苗木を育てるコツやみかんについて詳しいお話を伺いしました。熱く語っていただいた宮崎さんの農作業への情熱を感じつつ、柑橘類の苗木についての知識を深めることができました。また、宮崎さんとの対談を通して、コモンズ農園の未来像やアートプロジェクトの意味などを話しながら、新しく苗木の里親になっていただいた方々に理解を深めていただきました。苗木の譲渡会では、宮崎農園で取り組まれている試作商品である果汁100%の木熟みかんジュースを提供いただきました。みかんジュースの瓶には、コモンズ農園の特製ラベルを貼り、冗談まじりに未来のコモンズ農園産に見たてたジュースとして、シュミレーションと味見を楽しむ時間も設けました。甘さ、酸味のバランスがとれたコクのある味わいでした。

スマイル農園
写真：下田学

譲渡会終了後には、会場となった ASA VILLEGEが運営する、野菜農園＜スマイル農園＞を見学する時間を作りました。＜スマイル農園＞で育てられたオーガニック野菜は、ASA VILLEGEをはじめ会社が運営する別の宿泊施設にも提供され、施設を利用するお客様に安全安心で味が濃く美味しい野菜を提供することを目指しているそうです。大きな規模の農園というよりも育てられる規模で質を感じさせる農園の在り方を感じることができました。このような姿もコモンズ農園を耕していく意味について参考になるものでした。

ASA VILLEGEの今井さん
写真：下田学

現在コモンズ農園を実現するための土地を探して続けていますが、譲渡会終了後には参加者の方々からたくさんの農園情報も寄せられました。理想とする農地が見つかるまで、粘り強く探していくつもりです。みなさまに助けられながら、何ら根拠のない曖昧な感覚なのですが、直感的に農園はもうすぐ見つかりそうな予感がしています。

彩りみかん-多様な柑橘を楽しむ会

原拓生さんが解説を行っている会場の様子
写真：下田学

＜苗木の譲渡会＞と合わせて、紀南アートウイーク主催による＜彩りみかん-多様な柑橘を楽しむ会＞も開催しました。昨年に続き２回目となる会には、私自身も参加することができ、実際に多様な柑橘類を味わう喜びと味覚や風味の微妙な違いを感じながら、柑橘の芳香に包まれ幸せな２時間でした。これだけの種類の柑橘類を一度に味わい比べられる機会は、そう滅多にないことです。幸福感に包まれたもう一つの理由が、紀州原農園の原拓生さんによる柑橘類にまつわる歴史やエピソードなどを聴きながら味わうことでした。さらに想像力が膨らみ柑橘類の豊かさをこの上なく感じることができたからだと思います。原さんの話術もさながら、柑橘類に関する膨大な知識と話の面白さは群を抜いていて、このプロジェクトを通じて原さんと知り合いになれたこと自体も私にとっては大きな収穫でした。

爽やかな柑橘の香りを楽しめる晩白柚（ばんぺいゆ）
写真：下田学

今回の紀南滞在で、念願の柑橘を楽しむ会に参加できた経験と柑橘類の豊かさを改めて身体を通じて感じたのは、全てのことが未来のコモンズ農園の在り方を深めていくチャンスになっているということです。紀南に滞在するたたびに必ず何かを識り、学び、考える時間を与えてくれるものとなるからです。それは、これまで出会うことができなかった方々とこのアートプロジェクトを通じ知り合い、新たな価値観を一緒に考えていくことができる時間でもあるといえます。私たちの農園は実際にはまだ開園していませんが、準備期間を通じてコモンズ農園の精神はすでに参加者の方々に少しづつ芽生え始めています。

柑橘を楽しむ会用に用意された30種類以上の柑橘
写真：下田学

おそらく、来年も＜多様な柑橘を楽しむ会＞は開催されるはずですので、興味持っている方や未知なる体験をしたい方は、ご参加されることを是非お勧めします。

廣瀬 智央

91-92年イタリア政府給費奨学生として渡伊 現在もミラノを拠点に活動している。長年の異文化での体験を推敲し、日常的な素材を用いて視覚化した、透明感と浮遊感を伴う作品を制作している。インスタレーション、パフォーマンス、彫刻、プロジェクトなど様々なメディアによって、現実と記憶の世界が交差する世界観を生み出す。世界各地で展覧会多数。www.milleprato.com

コラム 05

宮﨑 元樹

苗木の里親の皆さん、こんにちは！先日、廣瀬さんと「みかんの苗木の旅（苗木の譲渡会）」でトークをご一緒させていただいた、みやざき農園の宮崎です。譲渡会から早くも一ヶ月が経ちました。紀南は今、葉桜や新緑が目に鮮やかな季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

先日の譲渡会は、普段見慣れている「みかんの苗木」が旅立っていく様子を見ながら、あらためて「柑橘」や「自分の仕事」、またその延長線上にある地域との繋がりについて考えるいい機会となりました。以下、メモにまとめてみました。皆さまと共有させていただきます。

大坊からの眺め
写真：Tartaruga

エリア紹介：大坊地域のみかん栽培方法とリスク

僕の農園は、和歌山県南部の「大坊地区（田辺市）」というエリアにあり、標高150～300メートルのところで宮川早生（温州みかんの一種）と南高梅を主力品種として栽培しています。

僕たちの地域は早生みかんの収穫を遅らせて限界まで木で熟して出荷する「木熟みかん」を栽培する特殊な地域です。他の紀南エリアでの栽培方法とは少し異なります。これができるのは大坊の標高の高さと、南向きという条件が揃うことでこの栽培方法が成り立ってます。みかんの収穫を遅らせることは実はとてもリスクが高いのです。通常であれば、年末で収穫が終わる早生みかんを、翌年の１月中旬まで木にならしておくため、木の上で実が腐ってしまったり、鳥獣害の可能性が非常に高くなります。特に鳥やイノシシによる被害は深刻です。一年間愛情を注いで大事に育てたみかんを収穫寸前で食べられてしまうと作る気力がなくなってしまいます。他のエリアのように、畑をフェンスで囲ったりするのは平地ではないため、とても重労働でなかなか簡単にすることができません。

収穫前10月頃、園内の老木について説明をしてくれる宮崎さん
写真：下田学

～鳥獣害から地域の作物を守る～

ないがしろ団

～更に未来の農業を持続へ～

© ないがしろ団

鳥獣対策：地域仲間と「ないがしろ団」を結成！

まずはこの鳥獣害の被害対策として、青年部の仲間たちと2018年に鳥獣害からみかんを守るプロジェクト「ないがしろ団」を8人で立ち上げました。「現状をないがしろにできない」という意味が込められています。これまでイノシシやアライグマなど500頭以上を捕獲しました。

新たな挑戦と「協調性」の大切さ！

次に挑戦していることは、みかんを一から育てることです。農家の高齢化、後継者不足はもちろん、苗屋さんの高齢化、後継者不足で苗を手に入れることが難しくなる時代がくると思います。どんどん新しい品種にシフトしていって自分たちが祖父の時代から育ててきた宮川早生という品種のみかんの苗もあまり作ってくれなくなりました。そこで自分たちで苗作りからしようと思い、今は地域の仲間と宮川早生を中心に育てています。

ただ時折、協調性に関する問題がでてきます。農家はみんな経営者であり職人でもあるため、自分なりの価値観が強く、協業が難しい時があります。自分ばかりになるのではなく、協力することで新しい知恵が生まれ、さらに1人では越えられない壁を仲間とともに越えていくことが小さな農家の大きな力になると思います。地域の先輩方もそのように試行錯誤しながらされてきたのかと思います。

大坊のみかん
写真：Tartaruga

今は抑制栽培（通常の収穫時期を遅らせること）で、大坊の「木熟みかん」の認知度が上がってきていまが、一昔前は他の柑橘産地と同時期に「宮川早生」として市場に普通出荷していました。ですが、これでは競争に負けてしまいます。そこで、先人たちが出荷時期をあとにすることで、より大坊地域のみかんの価値をあげることに成功したのです。更に木で熟す期間が長いため、味はより濃厚に仕上がり、温州みかんがない時期に出荷するので自然と付加価値がつきました。

新しく植えられる苗木
写真：著者

このように農家たちの40年以上の努力の積み重ねでやっと「柑橘栽培」がこの地に定着し、更には「大坊ブランド」として業界でも評価されるようになってきました。これは、個人の力では無理です。地域でも中堅役を担うようになってきた今、それがよくわかります。

からたち
写真：著者

コモンズ農園に期待すること

僕自身の経験を踏まえて、コモンズ農園と関わっていくことで一番の大きなことは「人との繋がりが生まれること」だと思います。これは、僕自身が、みかんを食べてくれる人（消費者）と直接繋がることで実感しました。今までは青果市場や農協にみかん

を出荷し、それで僕の業務は終わりでした。「どんな方が当農園のみかんを買ってくれているか？」など、消費者の反応がわかりませんでした。それが、新しい人と繋がることによって直接コミュニケーションがとれるため、将来に向けてのビジョンが広がります。コモンズ農園もまさにそのきっかけをくれたプロジェクトの一つです。

僕の希望としては、コモンズ農園の真ん中で柑橘に囲まれたテーブルを設置して、里親の皆さんとお酒や食事をしながらいろんなお話を聞いてみたいです。コモンズ農園は、枠に囚われない試みが行われるのではないかと期待しています。イメージとしては多種な柑橘が育っており、農家の自分も聞いたこともない食べたこともない柑橘が育っているのではないかとワクワクしています。いろんな種類の柑橘が一つの農園で育つ。前代未聞の園地になることを期待しています。

インタビューを受ける宮崎さんご夫婦
写真：下田学

実は、柑橘＝人間？！

そのコモンズ農園で育てる柑橘ですが、種類も豊富で性格も違うと思います。樹勢（個性）が強い木もあれば、弱い木もある。協調性がある木もあれば、その逆もある。樹齢や成長速度、また一本一本の木の特徴などを考えると、一品種の中でも多様性を感じます。これは、まさに人間そのものだと思います。手の入れ方次第で強い木を優しくしたり、逆に弱い木を強く育てたり、個々の特徴（個性）を捉えながら、実がなるようにサポートします。これは、

木熟みかんの箱 (みやざき農園にて)
写真：著者

苗木が一定の基準に達していないからダメという訳ではなく、各苗木と向き合うことにより、より特徴を理解し、諦めずに一緒に寄り添っていくということです。農家の園地は外にあるので、どうしても自然環境に左右される時が多く、頭を抱えてしまう時も多々ありますが、この「寄り添って一緒に成長していく」経験は植物を育てる醍醐味の一つでもあるかと思います。一緒に寄り添った結果、期待通りの木に成長してくれる時もあれば、そうでない時もあります。これも人間界と同じではないでしょうか。
苗木の里親さんにも、お手元の苗木がどのように成長をし、またどのような実をつけるのかなどのイメージを膨らませていただきながら、コモンズ農園に移植した後の苗木を想像しながらサポートしてあげると、より苗木の成長を楽しめるかと思います。

ただ、苗木に寄り添う中で、課題に直面することもあるかと思います。そこで最後に、農作業で四苦八苦していた時に次女の担任の先生から素敵な言葉を教えてもらったのでここでも共有させてください。もし、苗木栽培の難しさに直面した時は思い出してもらえると嬉しいです。

人生に大切な「あいうえお」

「い」意志
自分の行動が目的に合うように調整すること
意志のある者が

「う」運
意志のある者が運をつかむ

運は己の行動次第で動きが掴めるもの
行動さえすれば実行さえすれば、流れを変えることもできる

「え」縁
意志があり、運をつかんだものが縁を結ぶ
縁は一方的ではいけない
己と相手とお互いが結ぼうと思わなければ、結ぶことができないのが縁
縁は意志があり、運を掴んだ者がまた会いたいと共に進む道があると縁ができる

「お」恩
意志があり、運を掴み、縁を結んだ者が恩を感じる
たくさんの人やこれまでの恩を感じ恩を返す
恩を忘れてはいけないということ

では、「い」意志の前の「あ」は何なのか一番はじめとなる「あ」は何なのか考えれば自ずと出てくるもの

「お」恩の次は「か」感謝がある
恩を感じ感謝する
感謝できる者は次があるということ

では「あ」は…
すべての始まりの「あ」と思うのか
その答えは皆さんの中にあるかと思います。

自分の「あ」は愛（情熱・好奇心）です。

宮﨑 元樹（みやざき もとき）

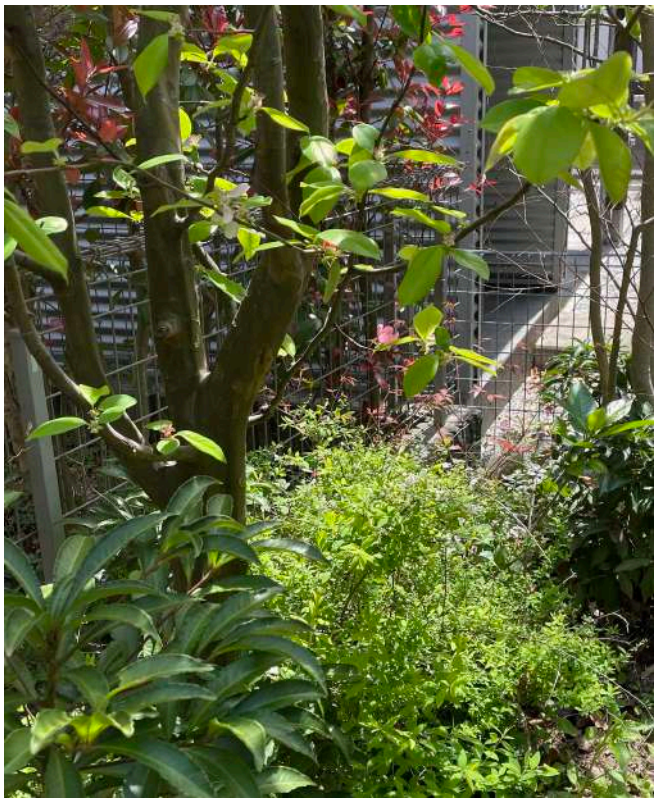
みやざき農園の園主。農業を継承して約14年。田辺市大坊エリアの高地を活かした抑制栽培で育てた「越冬木熟大坊みかん」と南高梅を主に栽培。「大坊みかん」を国内外に広めるべく、温州みかんのPRにも力を入れている若手の一人。昨年末、そのミカンがベトナム国家主席の献上品として届けられる。また、鳥獣害で地域農業の被害拡大を防止すべく地域の若者で結成した「ないがしろ団」のYoutube チャンネルのプロデュース兼制作を手掛ける。
独自で異色を放つ栽培スタイルを開拓しつつも、過去にJA紀南青年部部長を努めたり、柑橘ソムリエを取得したりと地域に根ざした継続可能な農業スタイルを目指す。また、昨年末より柑橘愛好家団体「みかんソサエティー」のメンバーに加わり、地元の柑橘業界を盛り上げるのに一役買っている。趣味は魚釣り。（@miyazaki_farm_wakayama)

メッセージ 05

雑草とりのたのしみ

住友 文彦

コモンズ農園プロジェクトや展覧会/ワークショップなどの企画にかかわっている住友といいます。日に日に暖かさが増していくと私が気になるのは「雑草」。この季節は、雨が降って土が柔らかくなったのにお休みの日に出かけてしまうと、あ、雑草とりしておけばよかったと後悔することもしばしばです。



ちょうど花が咲き始めたカリン
写真：著者

というとまめに面倒を見ているように聞こえるかもしれませんが、要はズボラの楽しみのような庭いじりを今回はご紹介します。もちろん農地のような広さはないので、せいぜい週末の1-2時間、不定期開催です。アウトドア用の折りたたみ椅子と小型スピーカーを出して、まずは全体をしばらく眺め回します。音楽はファンク系のソウルをご近所迷惑にならない程度の音量でかけることが多いです。初めの頃はボサノバなどで優雅に過ごしたかったのですが、どうも気持ちがのりません。

庭に置かれた愛用アイテム（椅子とスピーカー）
写真：著者

車２台分ほどの小さな庭づくりは職人さんに頼まず（頼めず…）、私がもらったり、買ったりした苗や種をあちこちに植えて14年ほど経ったところです。じっと眺めながら、今日はどこを重点的に抜こうとか、今のうちに種まきをしておけば収穫が間に合う野菜は何かとか、あれこれ考えます。うまく根付いた植物もあれば、枯れていくものもある。その栄枯盛衰をじーっと眺めている時間がけっこういいんです。なぜ、あの山椒は枯れてしまったんだろう、でもイチジクは最近元気がいいな、とか。土や養分の専門的な知識はなく本当のところは分からないことばかりなんですが、そうした植物の状態を眺める時間が好きなんです。そして、よく分かっていないのにその日の気分で草抜き、剪定、種まきをしてしまうわけです。そのため、妻には雑然とし過ぎと不評なんですが、私には自然の循環と生命の力が溢れる小宇宙のように見えています。

いろいろな雑草が混在した庭
写真：著者

ドクダミ
写真：著者

とくに注目しているのは、前は見なかったのに勢力を増してきた植物です。最近まで勝手口周りに蕗が増えていたので嬉しかったのですが、ほとんどの場合は雑草なので、むしろ警戒心を向けて観察しています。決まった季節に一気に増えるタイプはなるべく早めにむしっておきます。ただ見慣れない草を見つけたときは、すぐに取ってしまわずに、どんな成長をするのか、しばらく見るようにしています。次の草とりの機会に可憐な花を咲かせ、ほうっと目を細めるときもあります。あるいは、しまった、必要以上に増えてしまった、というときもあります。ときどき、自分が植えたのか、自生したものか、分からなくなる植物もあります。

いわゆる雑草図鑑のような本なども面白いなと思って買うのですが、草とりをしながら風流にページをめくることはまずありません。しばらく庭を眺めて楽しんだら、腰をかがめて草を手で掴み、しばらく肉体作業に没頭するのが心地いいのです。しゃがみ込んだり、立ったりを繰り返すのは腰と膝に負担が大きく、とくに夏場はひと苦労ですが、土を触ることで自然の循環のなかに自分の身を置くような時間は他では得難いように感じています。わずかな時間でも土を触ることで、普段使わない触覚や嗅覚が刺激され、季節の移り変わり、年月の経過による植物の成長、葉や根のような細部を注意深く観察し、人間が本来持つ能力を回復させている気さえします。そんなときは知識よりも身体の運動に身を任せてしまいたい。

ドクダミの自家製「オーガニックローション」
写真：著者

もちろん、労働以外の楽しみもあります。コロナ自粛の期間には、カリンだけでなく、ドクダミやジューンベリーもお酒にして晩酌の種類を増やしました。生命力逞しいドクダミは「オーガニック・ローション」にもなる優れもの。肌の手入れなど無縁だった私に新しい習慣を与えてくれました。

5年目を迎えたみかんの木（2023年12月初旬の写真）
写真：著者

春を迎え、スダチの花のつぼみが出始める
写真：著者

柑橘は、「苗木の旅」プロジェクト開始に先立つこと5年前にホームセンターで買った苗木が20個ほどの実をつけるようになり、まだ酸っぱいのですが毎年の出来を楽しみにしています。今年は皮ごと刻んでジャムにしました。ただ、なんという品種の柑橘かを忘れてしまい、田辺の農家さんに写真を見せて尋ねたところ、そもそも栄養不足できちんと成長していない可能性があると指摘され、先日慌てて肥料を撒いたところです。きちんと育ったら品種を調べてみたいと思います。

さて、今年は春先からミントが増殖気味です。もちろんこれは食べられるからいいんですが、少し勢力図を広げ過ぎかもしれません。この様子だと草とりの疲れを癒すのはモヒートが増えそうです。ブラジル音楽をもっとスマホに入れておこうか。ちなみに私はいまだにサブスクではなくCD派です。

では、みなさんもそれぞれの植物との付き合いをぜひ楽しんでください。

元気のいいミント
写真：著者

住友文彦

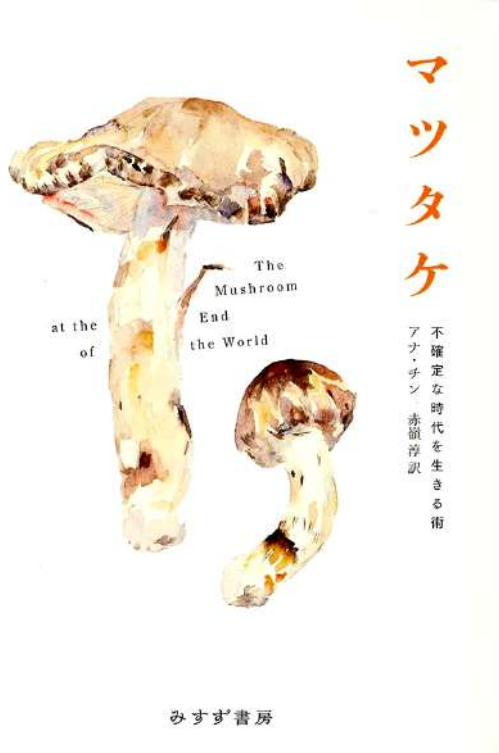
美術、音楽、映画、猫を偏愛し、それに理解がある人以外には変わった生活を送っていると思われがち。とくに個人や社会に対して美術がどのような役割を担っているのかに関心を持って、美術館学芸員やキュレーターとして展覧会やアートプロジェクトを数多く企画してきた。人間中心の自然観が今後どのように変化するのかをコモンズ農園などの企画を通して考えている。東京藝術大学大学院教授。

ディレクターズノート 04

おすすめの図書案内 Vol.4

藪本 雄登

『マツタケ　不確定な時代を生きる術』
アナ・チン (著)、赤嶺淳 (訳) 、みすず書房、2019年出版



© 2024 みすず書房

著者はアナ・チン。Art Power100[1]常連の人類学者です（最新のランキングでは、18位に位置しています）。和歌山県田辺出身のアーティスト・杵村（旧姓廣本）直子が描いたマツタケの表紙が、とにかく印象的な書籍。原題The Mushroom at the End of the Worldは、直訳すると「世界の果てのマツタケ」となるのでしょう。日本の秋の風物詩 ー マツタケー。実は、日本のマツタケの約95％が輸入であり、信じられませんが、世界最大のマツタケ輸入国なのです。確かに、同書では戦争の記憶、移民労働者、森林伐採や気候変動等のお先真っ暗な未来が描かれていますが、杵村が描くマツタケのイメージのように、ふわふわと浮き、拠り所を持たず、享楽的に生きていくことの重要性を示しているのでしょうか。まさに南方熊楠を魅了した「粘菌」の胞子のように。身軽に、そして流れるように。

アナ・チンは、オレゴン州（米国）、ラップランド（フィンランド）、雲南省（中国）や京都（日本）等での調査にもとづき、グローバル資本主義社会のなかで、日本に輸入されるマツタケのサプライチェーンを多角的に描き出します。実はマツタケは人工栽培ができず、その豊凶を自然にゆだねざるをえない不安定なモノなのです。そして、そのマツタケを採取するのも、移民や難民など不安定な生活を余儀なくされてきた人びとなのです。紀南／熊野でいえば、龍神村では、その自然に委ねられたマツタケはある種の「コモンズ（共有財産）」だったと聞きます。龍神の若者たちが村の危機（例えば、山火事）の際には力を発揮するという暗黙の了解によって、若者たちのマツタケの自由な採集が容認されていたようです。私たちは、いま《コモンズ農園》との対話をはじめたばかりですが、「コモンズ」とは一体何なのでしょうか。アナ・チンは、いまだ「コモンズ」として認識されていない、マツタケの子実体や胞子のような潜在的で、未発達で、完成することのないもののに可能性に賭けているようです。つまり、自然資源の保護か、利用かといった二項対立を超えたところにある「未来のコモンズ」を考える上で、みかん同様に「マツタケ」は最高の素材かもしれませんね。

藪本 雄登

紀南アートウィーク実行委員長。十数年に渡り、カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ等に居住し、業務の傍ら、各地のアーティスト、キュレーター、アートコレクティブ等への助成や展示会の支援を行っている。現在、アジア太平洋地域の神話、伝説、寓話や民俗等に関心を持ち、人類学とアートについて研究を行っている。

[1] イギリスの現代美術雑誌『ArtReview』が2002年から毎年発表しており、全世界のアート界の有識者が匿名で寄せた意見を基に、12か月間に現代アートの発展に貢献した100組をリストアップする企画になっています。詳細なランキングは、以下URLから閲覧可能です（https://artreview.com/power-100/、最終閲覧2024年3月）

編集後記

「みかんの苗木の旅通信」5回目の配信です。表紙は、田辺市で行われた＜彩りみかん-多様な柑橘を楽しむ会＞のイヴェントから。多種多様な田辺の柑橘が充実。原さんのご協力のおかげです。ありがとうございました。みかんレターではコモンズ農園開園に向けての２回目の＜苗木の譲渡会＞の様子と＜彩りみかん＞のご報告。コラムではみかんコレクティヴの住友さんよりお庭を。図書案内ではディレクターの藪本さんから興味津々の本「マツタケ- 不確定な時代を生きる術」のご案内です。コモンズ農園のヒントがここに多く述べられているような内容となっています。また、コモンズ農園に関心を持たれて参加いただいている、みかんコレクティヴのメンバー宮崎さんより熱いメッセージも寄稿いただきました。

引き続き、みかんを愛するみなさまとの交流やコミュニケーションを図りたく思います。通信へのご意見やご提案、ご質問等ありましたら下記メール宛に気軽にお寄せください。（s.h）

みかんの苗木の旅 通信 vol.5
編集：廣瀬 智央
発行：みかんコレクティヴ
発行日：2024年05月15日
infobox@milleprato.com